

<b>海外アカデミック・ディスカッション</b>	
<b>「誘い」表現における中日対照研究</b>	
黄 明淑	比較社会文化学専攻
期間	2010年9月16日～2010年9月27日
研究交流プログラム	2010年度中国日語教育研究国際フォーラム・ 第六回中日韓教育国際フォーラム
場所	中国・大連
施設	大連外国語大学

## 内容報告

### 1. 研究の構想と進捗状況

本報告者は博士課程において、「誘い表現」における中日対照研究をテーマとして研究を進めている。博士論文では、中国語母語話者と日本語母語話者の比較対照研究と中国人日本語学習者と日本人母語話者の接触場面研究を通して「誘い」表現における中日間の全体の構造分析を目指している。

今回の発表では、今までの先行研究を踏まえ、二つの研究課題を設けた。

(1) 中国語母語話者と日本語母語話者の誘い部で使用された意味公式の使用頻度には、どのような差が見られるか。

(2) 中国語母語話者と日本語母語話者の誘い部で使用された意味公式の種類別の使用に、どのような特徴が見られるか。

今までの研究をより深めるためには、客観的な視点から意見を聞く必要があると考えた。そこで、今回の海外アカデミック・ディスカッションという研究プログラムを通して、2010年9月24日から27日にかけて中国で行われた「2010年度中国日語教育研究会年会・第六回中日韓文化教育研究国際フォーラム」に参加し、研究成果を発表した。日本語教育専門分野の海外及び現地の研究者と教師及び発表者から様々な視点からのコメントと貴重なご意見をいただき、自分の研究を見直す良い機会となった。以下では、報告者が参加したフォーラムで得られた成果について報告する。

### 2. 中日韓教育国際フォーラムの概要

このたび、平成22年度大学院教育支援プログラム「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」―「海外アカデミック・ディスカッション」の支援をいただき、大連市に滞在できたことに、心より感謝を申し上げる。

中国日語教育学会（英語名：China Japanese Education Association）は、国家教育部と中国外語教学研究会の指導の基で、学術活動を積極的に行い、日本語教授経験をまとめ、交流し、教授法及び日本語、文学、文化など様々な面から学術研究を行う学術団体で、現在中国日本語業界で最も影響力を持つ日本語教育学会である。

本研究会は二年に一回、中国国内あるいは国際的な学術研究会を行っており、今回は大連外国語大学と中日韓文化教育国際フォーラムの共催で開かれたものである。テーマは「学習者中心の日本語教育に向けて」である。

今回のフォーラムには、中国日語教育研究会会長、副会長を含め、全国や海外の一流の専門家や教授、学者、教授、国内外の研究者が共に参加し、最近の日本語教育の研究の動きや現状、研究方法、異なる視点及び分析方法について議論を行った。

今回の国際フォーラムには、中国日語教育研究会会長、副会長を含め、全国や海外の一流の専門家や教授、学者、教授、国内外の研究者が共に参加し、最近の日本語教育の研究の動きや現状、研究方法、異なる視点及び分析方法について議論を行った。

### 3. 中日韓教育国際フォーラム参加の成果

今回の学会参加及び発表を通して、日本語教育の中の教材開発や教授法の検討など、中国国内の日本語教育の方向及び現状を把握すると同時に、日本語教育における学習者の分析、及び学習者のコミュニケーション能力育成などの問題について、その理論と実践方法を検討し、日本語教育に関わる学習者・支援者・教師・研究者の間で活発な意見交換を行うことができた。

今回のフォーラムは、中国と日本、韓国三カ国が参加する国際色鮮やかな国際フォーラムであり、今度の日本語教育研究の世界的拠点となり、ひいてはア

ジア諸国との研究の新たな可能性が開かれ、日本語教育や中国と日本の文化研究やアジア研究において、新たなディシプリンの確立が期待される。

また、本報告者の発表においては、本報告者が研究を進めていく課程で疑問に思っていた部分や本報告者とは相違なる見方であった部分について、質疑応答やディスカッションを通じて意見交換を行い、貴重なご意見をいただいた。それだけではなく、発表を通して自分の研究を見直すいい機会となり、研究進捗状況の確認ができ、修士論文の結果を踏まえた

次の研究計画がなされることが期待される。

#### 今後の研究課題

今回の海外アカデミック・ディスカッションで得られた成果は、現在まで収集した資料や今回の国際フォーラムでいただいたご意見を参考に研究を見直し、お茶の水女子大学の2011年『人間文化創成科学論叢』や日本語言語文化研究学術誌に投稿する予定である。

コウ メイシュク／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻